

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100912		
法人名	株式会社春風会		
事業所名(ユニット名)	春風会わかのうらグループホーム 1ユニット		
所在地	和歌山県和歌山市和歌浦中1丁目1番15号		
自己評価作成日	令和2年1月12日	評価結果市町村受理日	令和2年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=3090100912-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;jiyosyoCd=3090100912-00&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

見学やご相談、施設のご案内も迅速に対応し、生活の場や施設の雰囲気などありのままを見ていただくこと。来訪者には、職員一人ひとりが笑顔でご挨拶するよう心掛けております。ご家族、ご親戚の面会も多くご入居者の日頃の様子をお伝えし意向の把握や確認、ご家族への感謝や労いの言葉を添え信頼関係を深めております。地域の行事や盆踊り・小学校の敬老会等に参加し、地域に開かれたグループホームを目指している。医療従事者と密な連携で体調管理を行い、出来ることの支援とし役割を持っていただき、安心してその人らしい生活の継続が維持できるよう支援している。併設している認知症対応型通所介護・小規模多機能型居宅介護と連携を図り、ボランティアを活用し合同行事を楽しんだり、利用者や職員同士の交流を大切にしている。また、合同防災訓練や避難訓練を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の掲げる「仁・慈・絡・歓」という理念は、入居者の尊厳を守り関係を深めることで、歓びを感じるということを意味しており、まさに介護の姿勢に直結する理念であると言える。すべての職員は入居者一人ひとりの思いに寄り添い、喜怒哀楽を共にしながら人生の春を支えている。健康管理や医療面では、かかりつけ医・看護師等の関係者との連携が密になされ、適切な医療が受けられる体制にあることから入居者及び家族等に不安はない。地域との繋がりについては、自治会への加入・春カフェの開催等を通しての交流はあるが未だ十分ではないと判断しており、今後は自治会への働きかけ、地域包括センターとの連携、運営推進会議の活用等を図りながら繋がりを強めたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム受けに理念を掲げ、カンファレンスや社内の全体研修会で、理念に基づいた春風会憲章の唱和を行い、職員が共有できるよう取り組んでいる	法人の活動の柱である理念・憲章をより取り組みやすく具体化したユニット毎の目標を設定し、ケア実践の基本としている。管理者と職員は理念・憲章に加えて自らの手に成る目標を共有しながら入居者の日々の生活を支えており、その浸透度は高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りや行事、小学校の敬老会に招待頂きご入居者と共に参加し交流を図っている。地域住民として自治会に加入し、商店街の八百屋やスーパーと提携し食材の配達等、地域交流に取り組んでいる	近くのスーパーへの買い物時等に近隣住民や店の方と挨拶や言葉交す等の交流がある。地域の小学校での敬老会に招待されての参加、小学生の実習の受け入れ、ボランティアの訪問等も交流の良い機会となっている。また事業所の一角に設けられたカフェスペースは地域住民の交流の場であり、介護保険利用の橋渡し役も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェスペースが、地域の方々の憩いの場となるよう開放している。毎月第4木曜に“春café”を開催し地域の方のご相談や、イベント(音楽会)や共同作業所の方によるパンの販売を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回グループホーム・デイサービス・小規模多機能で開催し、ご入居者・ご家族・知見者・包括支援センター等に参加して頂き、活動報告や意見交換を行う。内容はカンファで報告しサービス向上に活かしている	会議には病院の地域連携室職員の出席もあり、グループホームが退院時の選択肢の一つとなっている。入居者は当事者として必ず出席している。会議ではテーマを設定し、資料を予め揃える等の工夫で活発に話し合いが行われ、出された意見を職員間での検討を経てサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、ご入居者数・待機者数の報告をしグループホーム便りを送付している。認定調査の依頼や支援の相談、地域の情報を共有している。事故報告の届出を行い、対策と防止を具体的に報告し意見も頂く	包括支援センターの依頼を受け、対象者・家族等と面談し、先ずは在宅生活を続けながらのサービス利用に繋げる等相互の円滑な協力関係が築かれている。市への事故報告も当該ケースの届出に止まらず、事業所の実情やサービスへの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くことができる機会ととらえている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針の読み合わせや、身体拘束適正化検討委員会で事例検討を行っている。契約時、ご家族にリスクを踏まえた説明を行い、階段は施錠せずセンサー対応、エレベーターと玄関も施錠せず見守り対応	社内の検討会及び外部研修への参加を通して、代表者及びすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解しているが、同時に言葉による拘束はややもすると生じることを痛感しており、職員各自の振り返り及び相互確認を徹底している。事業所内外の出入りは自由である為、デイサービス・小規模多機能サービス及び事務局の職員とも協力しての見守り対応である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修やカンファレンスで高齢者虐待に対する勉強会を行い、スピーチロックや呼び方等、意識するよう心掛け不適切なケアの防止に努めている。職員の体調管理・精神的ケアとし産業医による面談も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護推進委員が、権利擁護に関する研修会に参加し、カンファレンスで職員と共に学び、支援に繋げている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約・改定等の際は、ご入居者やご家族に十分な説明と、書面を配布しご理解・ご納得いただけるよう対応している。尚、ご家族の疑問や福祉用具の要望についてその都度、迅速な対応に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者には日頃の何気ない会話から要望を伺い、ご家族にはお電話、運営推進会議、訪問時の面会・ご意見・ご提案カードで意見要望を拝聴し、送りやカンファレンスで周知し改善や運営に反映している	家族等への請求書送付の際には、意見・要望の記入用紙を同封している。通院時の同行・減薬等の要望が出されており、職員又は関係者と検討の上実現に向けて運営に反映させている。また外部の機関に意見・要望を表明できる旨を文書及び口頭で説明する等で周知を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで、現場の意見や提案を積極的に発言する機会を設け、リーダーミーティングでは、ユニットリーダーが職員の意見を集約し運営の反映に努めている。管理者自身も“聴く”ことを大切にしている	会議の場に限定されず職員は随時意見・提案を出すことができる。管理者の判断で個人面談を行うこともある。管理者が職員の意見を集約して実行に移すが、高額の商品の購入等については代表者の決裁を受ける必要がある。具体例として福祉車輛の購入が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、時には個人面談で個々の意見を聞き、職場環境・条件の整備に活かすよう努めている。雇用契約では、事前に給与の手当等について個々に説明を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、基礎研修で新人職員の社内研修システムを構築。個々のスキルアップを応援し、外部研修の案内や助成金制度を活用し積極的に参加・学べる機会を確保している。アセツサーの受講を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流会や運営推進会議、春caféの開催で、他事業所との意見・情報交換を行いネットワークを広げている。外部研修や事例発表会に参加し、職員と共にサービスの質向上に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅での過ごし方やご本人の思い、どのように暮らしたいか、不安感や困っていることは何か？ご本人の表情や口調に合わせゆっくりお話を傾聴し、安心して頂けるよう努め、ご家族からも聞き取りを行う		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護負担や困っていることを、しっかりと傾聴し受け止め、今後の支援についての要望や思い、ご意見を伺いながら質問にも丁寧にお答えし、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要としているサービスは何か？アセスメントを行い、適切なサービスのご紹介に努めている。施設訪問時には、併設しているデイサービス、小規模多機能もご見学頂きサービスの説明も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の配膳や洗濯物のお手伝い等、出来ることの支援を大切に、日常生活での役割りでご入居者が生きがいを持ち、職員と共に過ごしながらお互い支え合う関係性を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月お手紙でご入居者の様子を報告し、定期受診等ご協力頂きながら支援を行っている。気兼ねなく訪問頂けるよう面会時間も柔軟な対応を心掛け、ご入居者・ご家族との外出支援も大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、親交が深かったご友人等の訪問を大切に、プライベートな時間をゆったり過ごして頂けるよう支援している。近隣のスーパーへの買い物や、思い出の場所にドライブ等、支援に努めている	併設するデイサービスや小規模多機能サービスを利用する知人との交流が頻繁にあり、家族等と外食に出かけることもある。毎月家族等に送付する入居者一人ひとりの状況報告書には事業所だよりを必ず同封しており、これもまた馴染みの人や場との関係継続の支援の一環となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや洗濯物をたたくたり、共に楽しみ活動できるよう支援し、ご入居者同士が円滑にコミュニケーションを図れるよう、職員が潤滑油の役割を担う。相性等見極め、座る配置や環境整備にも配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院等では、ご家族に経過や意向を含めご連絡や面会を行い、ご相談頂ける関係性を大切にしている。主治医やケアマネ等情報共有を行い、状態に合わせた施設の支援方法も説明を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションで、希望・意向に添った支援に努め、柔軟な対応を心掛けている。把握が困難な場合、生活歴やご家族、担当ケアマネに情報を伺い、ご本人の表情や行動をアセスメントし支援している	入居者の思いや意向を確認する際には、できるだけ選択肢を少なくし、自己決定をしやすくしている。すべての職員が日々の気づきを持ち寄り、専用シートを用いて共有しながらの支援である。把握が困難な場合は、本人の視点に立つことに努め、職員間での検討を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職種や役職、趣味等ご本人やご家族、ケアマネから生活歴やサービスの関わりも含め、頂いた情報をカンファレンスで共有し支援に繋げている。ご入居者一人ひとりの生活環境の整備にも努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜勤のご様子は申し送りをを行い、入居者記録や申し送りノートも活用し、状態把握に努めている。自信に繋がるような活動への参加を促したり、心身の状況変化に気づくよう、寄り添い傾聴に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族等からご要望をお伺いし、ユニット別のカンファレンスで職員が気づきや意見を出し合い、主治医等医療関係者の意見も反映し、総合的にアセスメントを行い作成している	かかりつけ医・看護師等の関係者とは通院時や往診の際に話し合っている。担当者と計画作成者が各別にアセスメントを実施し突き合わせるという方法をとっており、行き届いた介護計画の作成及び見直しによる現状に即した介護計画の作成に効果が大きい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体・心身状況に合わせたケア方法について、職員の意見を積極的に支援に取り入れ実践・記録を行い、改善や根拠に基づいた支援であるか、また担当職員が評価を行い介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に合わせ、ご本人やご家族と相談し福祉用具の活用や、医療関係者との連携を行っている。併設しているデイサービスや小規模多機能との交流を図り、ご家族との外出や外食、通院支援も取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域商店街の散策や、スーパーへ買い物に行ったり、学校行事への参加を行っている。地域の美容院や病院のご協力も頂き、地域資源の利用に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	柔軟な往診のご協力を頂いたり、複数の協力医療機関と入院先での主治医が連携を図って下さり支援している。協力医療機関のご案内やご提案の際、ご本人やご家族に納得・同意頂いてから支援に繋げている	本人・家族等の希望により通院での受診もあるが、主として協力医による往診を利用している。外部の医療機関へは職員が同行し、口頭または文書で情報を提供することで適切な医療が受けられるように支援している。併設する事業所の看護師による必要時の対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は些細な状態変化を看護職員に申し送り、迅速な対応で体調管理に努めている。また、主治医や訪問看護と相談・連携を図りやすい関係性を構築し協働に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、服薬や支援状況等を主治医や看護師に情報提供を行い、退院時は病院でのカンファレンスにご家族と共に参加させて頂き、相談している。日頃から病院の地域連携室と、情報交換できるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に重度化・終末期における事業所の対応力や協力医療機関の体制をご本人、ご家族に説明し意向を伺っている。状態変化に合わせ、ご家族の思いに寄り添い、職員と話し合いご家族の協力の元、主治医と共にチームケアに努める	契約時の本人・家族等の意向は状況に応じて変わることが予想される為段階毎に確認を行っている。かかりつけ医・看護師等の医療関係者、職員、家族等が密に連携しての支援である。看取りの際には家族等の宿泊も視野に入れている。今年度に一名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的カンファレンスで急変や救急対応を想定した実践を行い、救急対応報告書で情報共有を行い、AEDの使用についてはDVDを活用し勉強会を行っている。緊急時対応マニュアルを作成し、指導を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災・避難訓練を計画。デイ、小規模多機能と合同避難訓練を行っている。地域の消防署や運営推進会議でご協力をお願いし、ライフジャケットの購入や備蓄も行っている。洪水・土砂・津波災害に備えた避難計画を作成している	年2回の合同避難訓練はマニュアルにそって入居者と職員が一緒に参加しての実施であり、内1回は実際に消防の立ち会いがあり指導を受けている。事業所は地域の指定避難場所となっており体制を整えている。なおライフジャケットの購入は職員の提案によるものである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修やカンファレンスで、基本のご挨拶や言葉かけについて職員個々が意識を高めるよう指導。入浴や排泄は羞恥心への配慮を行っている。新人職員や実習生に、守秘義務や個人情報について指導徹底する	呼称は入居者一人ひとりの尊厳を守るという観点から姓を用いることが基本である。また入居者の情報は必要時以外は口外せず、文書等は鍵のかかる専用の場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や口調、非言語的コミュニケーションからご本人の意思を汲み取り、柔軟な支援に努めている。お誕生日メニューやおやつバイキングで、共同生活でありながらも自己決定できるよう出来る限り心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態変化に合わせ、その日の入浴や就寝時間等出来る限り意向に添った柔軟な対応を心がけている。ご入居者個々の生活リズムやペースに合わせその人らしい暮らしを支援できるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地や好みの色、季節や外出に合わせ出来る限りご本人が自己決定しやすいよう努めている。カット前にはご本人やご家族に、意向をお伺いしたり、お化粧品やおしゃれを楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事メニュー、バイキング等、食事を楽しめる雰囲気作りも大切にしている。盛り付けや配膳、おやつ作り等、職員と一緒にしていただくことで、食べる楽しみが増すような支援を心掛けている	メニュー作成時は入居者の好みを確認する為具体的に品目を示す等で選択しやすい工夫をしている。折々に外食等を取り入れることが食事をより楽しいものにしており、おやつづくりもまた楽しみの一つである。菜園からの収穫物は食卓を大いに盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や疾患に合わせ、水分摂取量や食事量を明確にし情報共有を行い支援している。咀嚼状態に合わせ、一口大や刻み、ミキサー対応を行い食事姿勢にも配慮している。定期的な体重測定を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、夜間は義歯をポリデント消毒、口腔ケアセットはハイター希釈消毒を行い清潔保持を行っている。定期的な歯科往診で、口腔状態の診察や口腔マッサージを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの適切な使用や尿路感染症、自尊心への配慮をカンファレンスで勉強し、個々の排泄リズムを把握し、定期的な誘導や排泄を日課表に記録している。排泄姿勢など自立に向けた支援を心がけている	両ユニット共に半数程度の入居者が自立しており、排泄に関する自立度は高い。ユニット毎の3箇所のトイレは排泄を容易にする効果がある。排泄のリズムを的確に把握し、パッド・リハビリパンツ・ポータブルトイレ等を有効に活用しながら入居者一人ひとりに当を得た排泄支援を行っており、力の低下は見られない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を確認しながら、便秘予防にヨーグルトや果物、牛乳等、個々の意向に添った支援に取り組んでいる。必要な場合、主治医に相談し、服薬や坐薬にて排便コントロールも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の意向に添った、入浴時間(午前・午後)を支援し、変更も柔軟に対応している。身体状況に合わせ、二人介助やリフト浴等で安全な入浴対応を行う。体調変化に合わせ、足浴・清拭対応も行っている	人的介助での入浴に身体的負担が大きい入居者については、精神的な負担も併せて生じていることを認識する必要がある。ここにリフトの出番があり、スムーズで安全な入浴が安心と満足に繋がっている。入浴を拒み勝ちな入居者には、予め声を掛ける職員を決めておく等の工夫により継続的な拒否は生じていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は出来る限りご本人の意向や、その日の睡眠時間、体調に合わせて柔軟に対応している。体調管理等で午睡を促し、夜間眠れない時や不眠が続く場合、主治医に相談し服薬コントロールを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで薬の勉強会を行うたり、服薬マニュアルを作成し、服薬準備→介助→廃棄まで複数の職員で三重チェックを行い服薬事故防止に努めている。状態変化に合わせて主治医に相談し服薬調整を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性は布団を一緒に干したり、女性は掃除や食事の準備等、家事を役割とし生きがいを持って頂ける支援に努めている。買い物や散歩、年間行事を計画し活動を促し、気分転換を図れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族のご協力で外出や外食支援が行えている。檀家になっているお寺さんが近隣にある為 出かけたり地域の小学校の敬老会等参加している。ご入居者の希望に添った戸外への外出や、家族会を計画中	戸外に出ることは入居者・職員双方にとって気分転換の貴重な機会であることから、カフェスペースでの日光浴、近くのスーパーへの買い出し、ドライブ等を実施しており、行きつけの美容院に店の方の協力で出かける入居者もある。またこっそり出かけようとする入居者についても制止することなく職員が同行している。「帰宅」後の納得した表情から自己決定による決行が読み取れる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談し管理者が小口現金としてお預かり、管理している。消耗品やおやつなど欲しい物は、お小遣い(小口現金)があると説明し、買い物支援等で購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話頂いたり、希望があればご連絡しゆっくりお話できるよう配慮し、ご入居者に取り次いでいる。届いたお手紙やFAX、メールが読みにくい時は、代わりに読ませて頂いたり、年賀状をお出ししている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バルコニーに出て洗濯物を干し景色を眺め、季節を感じて頂く。間接照明や天窓からの日差しと空調管理で、落ち着いた居心地の良い空間づくりを行い、トイレやポータブルトイレは適宜清掃を行い衛生管理を心掛けている。家庭菜園の収穫を楽しむ	ホールにはソファ等がうまく配置され寛ぎの空間が整えられている。壁には季節の行事等の飾り付けがされているが、中でも目立つのは入居者と職員の共同製作である紙製の「春風神社」の鳥居である。新聞や雑誌に目を通したり、テレビの画面に合わせて体操をしたり、洗濯物をたたんだり、入居者は思い思いに一日の大半をホールで居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人がけソファやカウンター、食堂、カフェスペースを活用しプライベートで過ごせる配慮や、仲の良いご入居者が談笑できる空間づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者、ご家族と相談しラジオやテレビ等持参頂き、安全面に考慮しながら配置も行っている。夜間居室の施錠をされるご入居者は、ご希望に添った対応を心掛けている	使い慣れた馴染みの物を側に置いた部屋からほとんど持ち込み品のない部屋まで多様であり、入居者本人の個性の現われとも言えるが、安全面への対応の場合もある。居室は内側からの施錠でプライバシーを確保することができ、職員の居室への訪問の際にも十分な配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者の状態や変化を情報共有し、出来ることの支援に努めている。手すりの設置や、トイレの表示(視野に入る高さや角度)、居室と認識しやすいようご家族の写真等、飾らせて頂き工夫している		